

平成 30 年 1 月



## 花見川ライブレター 第12便

花見川図書館(本館)と団地分館(分館)からの  
お知らせと話題のページ花見川ライブレターです。

新年明けまして、おめでとうございます。花見川図書館は、暮らしの情報ひろばをめざしてまいります。本年もよろしくお願いいたします。

今回は千葉市図書館で一番大きなイベントである子ども読書まつりの報告と、図書館市民講座の話題を中心にお届けします。

### 花見川図書館 子ども読書まつり

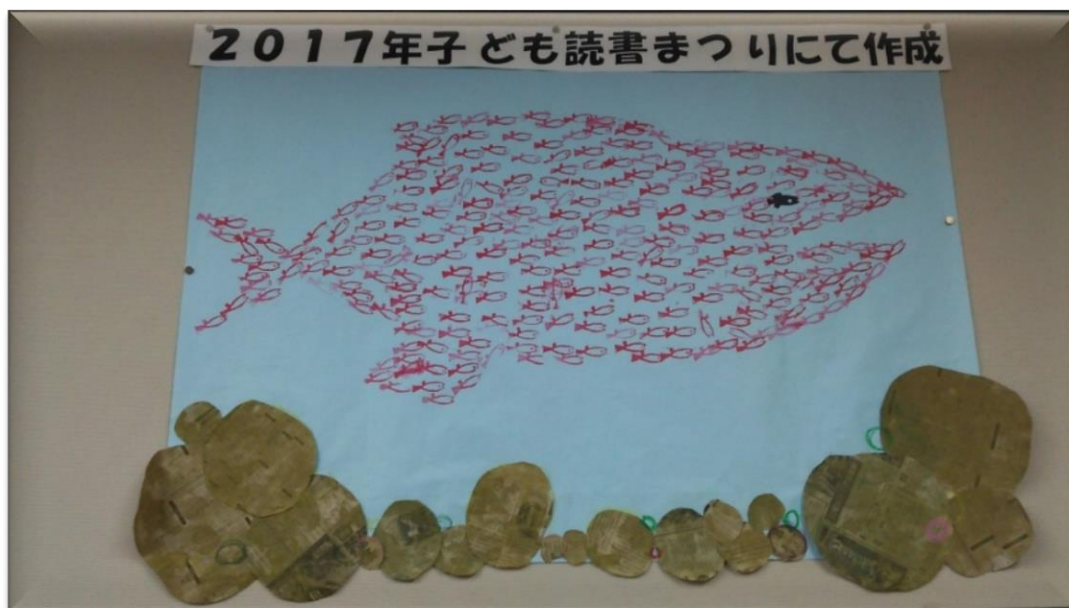
1月4日(土)に花見川図書館にて、子ども読書まつりを開催しました。

人気だったのは、ダンボールスピナーづくりです。今、人気のハンドスピナーもどきが自分で作れると、喜んでもらえました。きれいに回った時の子ども達の笑顔が素敵でした。

また、3つ以上のイベントに参加した子ども達には、消しゴムはんこで、スイミーの大きな魚作りに協力してもらいました。完成した作品は、現在こども室の壁に張ってあるので、是非ご覧ください。ちなみに、絵本の近くの寝ころび台のカバーもスイミー柄に新調されています。なお、カバーはスタッフの手作りです。

午後は、毎年恒例「みんなが語るおはなし会」を開催しました。今年は、小学校3年生から高校1年生までの5人が挑戦してくれました。大人とは違い、素直に読む子ども達の読み聞かせは、聞いているだけで笑顔がこぼれます。もし、来年挑戦してみたい子ども達がいたら、職員に声をかけてくださいね。

3連休のなか、ご来館いただいた皆様、ありがとうございました！



消しゴムはんこのスイミー

## 花見川図書館 新刊新着コーナー



花見川図書館をご利用の方はすでにご存じのことと思いますが、10月から新刊新着コーナーの棚を新しくしました。

新しい本の表紙が見える、手に取りやすい棚になりましたので、是非、ご覧ください。

## 花見川図書館 サイン板



11月には文学コーナーのサイン板を新しくしました。新しいサイン板はオレンジ色で見やすく、本が探しやすくなりました。また、書架の中でオレンジのサイン板はとても目立ち、文学コーナーの雰囲気も明るくなりました。

## 花見川図書館 市民講座



12月16日（土）に、花見川保健福祉センターにて市民講座を開催しました。

昨年につき、郷土博物館から講師をお招きし、「戦国時代の千葉氏と城」というテーマで千葉氏について学びました。

千葉氏については、P4～5「千葉市の歴史紹介のコーナー」でも、紹介しています。

## 花見川図書館 冬の親子おはなし会

12月22日（金）に冬の親子おはなし会を開催しました。

0～3歳のおはなし会では、絵本の読み聞かせやわらべうたを行い、8組の親子で楽しく過ごしました。

また、午後のおはなし会では、大型絵本と「なぞなぞの好きな女の子」の人形劇を行いました。初挑戦の人形劇でしたが、子ども達の「楽しかった！」の声に、職員も一安心でした。



## 花見川団地分館 子ども読書まつり

10月21日（土）に花見川団地分館で子ども読書まつりが開催されました。恒例のおはなし会・科学あそびの他に、わらべ歌・雑誌の無料配布を行いました。

わらべうたであそぼうでは、対象の0～3歳のお子さんだけでなく、兄弟で参加されたご家族もあり、わらべうたを歌ったり体を動かしたり楽しく遊びました。

科学あそびは、「アンモナイトを作ろう」をテーマに、紙粘土でアンモナイトの型抜きを行うか、サインペンを使っての色塗りのどちらかを行いました。作品が乾くまでの間、恐竜についてのクイズをスタンプラリー形式で行いました。

雨で天気の悪い中、多くの方のご参加いただきありがとうございました。

## わらべうたであそぼう



## 科学あそび アンモナイトをつくろう



## 千葉市の歴史紹介

### 1 千葉という名称

資料によると下記のとおり、古くは万葉集の時代から千葉の表記があることが分かります。

- ①『万葉集』（舒明天皇時代(629-41)から淳仁天皇の天平宝宇3年(759)まで、約130年の長歌・短歌などを収録した歌集）では、下総国の防人大田部足人が天平勝宝7年(755)が詠んだ歌に「千葉の野の」とあります。
- ②『日本後紀』（勅撰の編年体歴史書。承和7年(840)に成立。延暦11年(792)～天長10年(833)の41年余を記す）には「千葉国造大私部直善人」とあります。
- ③『延喜式』（延喜5年(905)に編さんを始め、延長5年(927)に完成した律令格に対する施行細則を集成した法典）に千葉と記されています。
- ④『和名類聚抄』（平安時代中期に作成された辞典。承平年間(931-937)に完成とされる）に「千葉 知波」とあり千葉の訓を知波と記しています。

### 2 千葉氏

#### 桓武平氏略系図

桓武天皇—葛原親王—高見王—高望王—良文—忠頼—忠常—常将—常長—常兼—常重—常胤—（以下略）

宇多天皇の寛平2年(890)桓武天皇の曾孫高望王は上総介に任ぜられ、臣籍に降下して平の姓を与えられて任地に赴きました。その子の一人が良文であって、千葉・上総・三浦・土肥・畠山・大庭・梶原・長尾のいわゆる坂東八平氏の祖とされています。

忠常は長元元年(1028)から同4年(1031)にかけて反乱を起こします。この反乱は房総を亡国のような状態にしたと伝わりますが、乱後子の常将や孫の常長は荒廃した土地を開発し、常長の子孫は房総全体に勢力を伸ばします。

常長の子常兼は上総国大椎(千葉市緑区大椎町)を拠点として大椎権介と称しました。常兼の支配は下総国中部から東部一帯に及んだと言われ、都川流域を中心として現千葉市域に広が

っていた千葉荘の開発も常兼あるいは子の常重です。千葉荘を鳥羽院に寄進して常兼（あるいは常重）が検非違所になりました。常重は大治元年（1126）に本拠を大椎から千葉郡に移し、既に地名としてあった千葉を名乗ったと考えられます。

### 3 千葉氏の館（城）

①千葉氏の館：千葉氏が館を構えた場所は「堀内」と呼ばれていました。かつて千葉地方裁判所の敷地が「御殿跡」と呼ばれていたこともあり、そこが千葉氏の館跡であった可能性があります。千葉城（館）の確実な文献資料における初見は、建武2年（1335）に千田胤貞と千葉介貞胤による一族内紛で千田胤貞が千葉城を攻撃しましたが、これに関して『相馬文書』の吉良貞家披露状に「千葉城」、同文書の相馬松鶴丸着到軍忠状には「千葉楯」と記されていることです。この千葉城（楯）は、戦時に城郭化された千葉氏の館を示すものと思われま

す。  
②千葉城（猪鼻城）：中世の城は日常生活する館と戦時に立て籠もる城は別々の場合が多く見られ、千葉氏の場合は前者が①の「堀内」の館で、後者が千葉市中央区亥鼻の高台にある猪鼻城跡（千葉城跡）と考えられます。平成8年（1996）には猪鼻城跡に建つ千葉市立郷土博物館の周辺で発掘調査が行われ、調査で発見された遺構は14～15世紀前半のものであることから、ここに千葉城が築かれたのは14世紀と推定されます。また、15世紀後半の遺物はほとんどないため、享徳4年（1455）に一族の内紛で千葉宗家が滅亡し千葉城が廃城になったという『鎌倉大草紙』の記載と整合性がとれます。なお、猪鼻城跡が千葉城跡とみなされるようになったのは、江戸時代（17世紀後半）になってからです。

#### 【参考文献】

- 『千葉市の戦国時代城館跡』 千葉市立郷土博物館 平成21年
- 『千葉県の歴史 通史編 古代2』 千葉県 平成13年
- 『千葉いまむかし NO.11』 千葉市教育委員会 平成10年
- 『千葉県の地名 日本歴史地名大系 第12巻』 平凡社 平成8年
- 『千葉市史 原始古代中世編 第1巻』 千葉市 昭和49年



千葉市立郷土博物館外観



千葉介常胤像（千葉市立郷土博物館所蔵）